

## ウリ類の着果安定と品質向上技術

第1報 苗質、苗令と雌花着生

森田敏雅・末永善久・\*田中正美・北嶋秀臣

(熊本県農業試験場園芸支場・\*熊本県農業試験場阿蘇分場)

Toshimasa MORITA, Yoshihisa SUENAGA, Masami TANAKA and Hideomi KITAJIMA :  
Bearing Stability and Quality Progress in Cucurbitaceae Crops.

### 1. Effects of Seedling and Shade on Female Flower's Differentiation in Watermelon

本県におけるスイカの前進出荷栽培は、定植期から交配期までが低温、寡日照であるため、雌花着生や花粉の発芽率が悪いことから着果が極めて不安定である。加えて、果実肥大不良、品質低下等の問題も生じている。

本試験場では、前進出荷作型におけるスイカの着果安定と品質向上を総合的に検討しているが、本報では、育苗期の光環境と育苗日数が雌花着生に及ぼす影響について検討したので、報告する。

#### 1. 試験方法

1) 試験区の構成 スイカ品種“翠章”を12月13日、12月26日、1月7日の3回に分けて播種し、ユウガオ台品種“さきかけ”に断根挿し接ぎ法で接ぎ木した。光量を露地に比べ透光率で90%、80% (トンネルビニール重)、60% (トンネルビニール二重) の環境で、育苗日数35日、47日、60日とし、2月12日に一斉に定植した。

2) 耕種概要 栽植密度は畦幅270cm、株間45cmとし、仕立て法は子づる2本仕立てとした。施肥量は、a当たり、N、P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>、K<sub>2</sub>Oを各2.5kg、稲ワラ100kg炭酸苦土石

灰及び苦土重焼隣を各6kg施用した。

#### 2. 結果及び考察

1) 苗質は、遮光により徒長気味となり、育苗日数が長くなれば長くなるほど、その傾向は強くなったが、摘心後の側枝の発生は大差なかった。

2) 交配期の生育は、遮光による一定の傾向は見られなかったが、着果節位は、25~32節と高くなった。

3) 雌花の着生数は35日苗で多い傾向がみられるが遮光処理では一定の傾向がみられなかった。

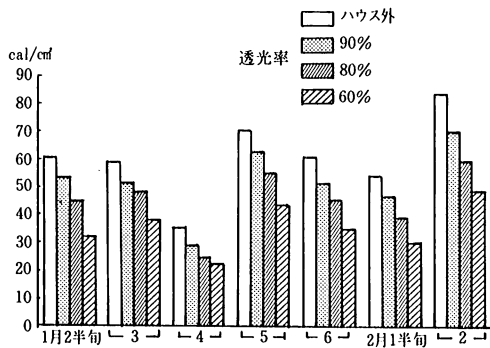
4) 子房の大きさは、15節前後の子房径が遮光によって小さくなる傾向が認められ、日数が長くなるほど高節位まで影響がみられた。

5) 収量、品質には処理による一定の傾向が認められなかった。

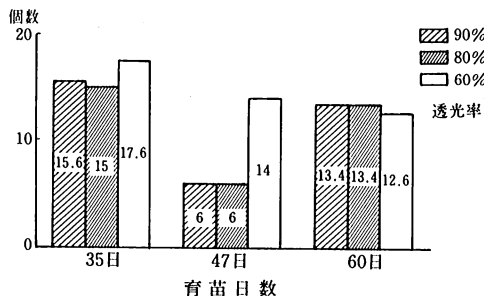
以上から、育苗日数は、60日間は長すぎ老化苗となることから35~47日が適当と思われる。育苗期の遮光処理は雌花数の増減には、影響が小さいが、雌花の質に影響が認められた。

第1表 定植苗及び交配期の生育(cm)

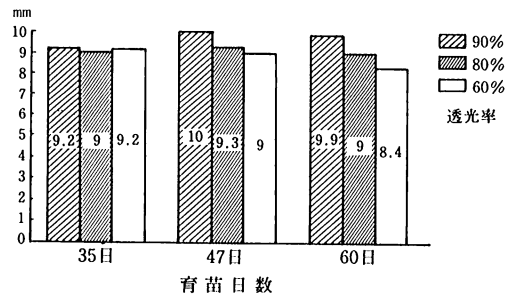
育苗 日数	光量 %	定 植 時								
		草丈	葉長	葉幅	側 芽					
					1	2	3	4	5	
35	90	6.0	6.3	6.6						
"	80	6.0	8.2	8.5						
"	60	7.0	7.5	8.2						
47	90	10.0	7.2	7.2	0.0	0.2	0.1	0.3	0.3	
"	80	13.2	8.5	8.8	0.0	0.1	0.2	0.2	0.3	
"	60	14.0	8.5	8.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.2	
60	90	10.2	8.3	8.4	0.2	0.4	0.4	0.2	0.6	
"	80	13.0	8.2	9.2	0.0	0.2	0.3	0.3	0.5	
"	60	14.0	8.3	9.3	0.1	0.1	0.4	0.4	0.3	



第1図 処理期間中の日射量



第2図 11-20節雌花数 10つる当たり



第3図 11-20節平均子房径